

みんなで語る会報告書

開催日時 平成25年7月4日(木) (19時00分～20時30分)
開催場所 川尻ふれあい交流館 (川尻校区)
参加者数 市民…48人
市職員…市長他14人

総計63名

会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 閉会

意見交換内容

【市民】

・川尻校区内の道路で見通しの悪い個所や車の離合しにくい個所、路面状態の悪い個所などがあるのでなんとか対応していただけないか。

<市長>

・地域の安全上大切なことであり、さっそく現場確認をしたうえで対応を検討したい。

【市民】

・財政の厳しい中、なぜ副市長は2人必要なのか。隣の市は2人から1人に減っている。

<市長>

・本市は指宿港海岸保全事業や国道の改良・拡幅など、国直轄のいろいろな大きな事業を推進しようとしている。国からの事業を円滑に進めようとのことで橋渡し役として、副市長という位置付けで九州経済産業局からおいでいただいたところである。また、人事交流という形で九州経済産業局にも本市から職員を一人派遣しており、年齢による給料額は違うが、お互いに人件費を負担しているところである。

【市民】

・山川高校は、この付近で唯一の農業科のある学校であり、将来の農業を背負って立つ子供たちを育てるためにも、山川地域の活性化のためにも、なんとか山川高校を残したいと思っている。市長が県にも行っていただいたという話も聞いており、ありがたいと思っているが、今度の7月1日に進路希望調査があり結果によっては来年度の募集を停止する可能性があるという県教委が言っている。山川高校を守るための、今後の対策を教えてください。

<市長>

・山川高校が変わったなあ、頑張るようになったなあということを県や県教育委員会、周りの人たちにも分かるような取り組みをしないといけないと思う。そのために、山川高校支援活性化委員会の会長をさせていただいている。山川高校を残して欲しい、残して欲しいということだけを言っても、山川高校が変わりようがなかったら、つまり山川高校がこの指宿の農業を支える核として、卒業生が農業後継者として頑張っているとか、または、山川高校が地域と一緒に山川高校を育てようとしていることが内外の人に認められるとか、そういうふうな形になるような説得をしていかないとならない。この間も、地域の人向けに農産物を売る取り組みをするなど山川高校は頑張っており、そのような活動が、中学校三年生にも魅力あるものと映り一人でも山川高校に行きたいという状況につながり、県や県教育委員会へのPRになると思う。今後も山川高校の生徒や地域と

協力して頑張りたい。

【市民】

・国民宿舎かいもん荘が無くなって数年が経過している。かいもん荘は地元はもとより登山客や釣り人など多くの方が利用していた。そういったことをもう一回検討してもらいたい。

<市長>

・関東かいもん会や関西かいもん会に参加させていただいた時にも、帰省した時に泊まる場所も無い、同窓生とみんなで飲み会ができる場所があってもいいのではないかと、何とかして欲しいという話も伺っている。これまで、募集を掛けたところいくつか応募や問い合わせがあったが、なかなか実行実現に至らなかったというのが現況である。

<産業振興部長>

・国民宿舎跡の活用についてPFI事業による調査を実施したが、厳しいという調査結果であった。その後、公募という形で3回ほど実施したが実現には至らなかった。公募が終わった後もいくつか問い合わせがあるが、目に見える形で進んでいないのが現状である。ただ、かいもん荘の跡地についてはロケーションも素晴らしい場所で温泉も3種類ほどあり、バリエーションに富んでいる。今後、開聞岳周辺の観光名所の拠点エリアとして、民間の方が事業化しやすいような公募の条件等も検討しながら、なるべく開聞地域の皆さんの想いを大切にして整備できるように努力したい。

<市長>

・できるだけ早く皆さんの想いを実現できるように、公募という形を取っているが、民間業者に個々に働き掛けるような積極的な取り組みもしていきたい。

【市民】

・子供が川尻に帰ってきて住みたいと言うけれども家がなくて住めない。市営住宅に入りたいとお願ひしてもすぐに入れない状況であり、川尻もだんだん人口が減ってきている。市営住宅建設の計画があるのかなのか、また、あるとすればいつなのか教えてほしい。

<市長>

・例えば、小学校区で児童数が少なくなって複式になったり、今後どうなるのかという心配を抱えた校区が市内にはいくつかあり、そういう校区で、若者が住めるような市営住宅を造って、子供たちが一人でも地元の小学校に通えるようにしてもらいたいというような要望がたくさんある。地域を盛り上げる、振興するためには定住者人口を増やすということは大変大切である。川尻区で市営住宅をどこに造ったらどんな形で子供たちが定住するのか、市営住宅に入居を希望するような需要がどのくらいあるのかなど良く調べて造らなければならない。市営住宅の入居は順番待ちだが、民間の住宅は相当空き家が出てきている。民間を圧迫するようではいけない、しかし、市営住宅に住みたいという要望もあるということも理解している。財政的な負担も含めて慎重に検討したい。

<産業振興部長>

・本年度から住宅リフォーム助成制度も始まっている。祖父母の家が空いていれば、制度を活用してリフォームを行い、自分の子供さんが住むという方法も考えられるので、ぜひ制度の活用を行ってほしい。

【市民】

・この頃、開聞岳登山の事故が多い、これに対して天候不順のときや、夕方からの登山の時間制限などどういう対策を取っているのか。

<市長>

・開聞岳の登山客が増え、登山自体は結構厳しいが軽装で登られる方もいて事故が増えており、特に開聞地域の消防団の方々には非常にお世話になっている現状である。

<開聞支所長>

・高齢の登山者も増えているが、健常者の方でも1000m足らずの山ということで安易に考えていらっしゃる方もいる。問い合わせも良くあり、健常者で登りに3時間、下りに2時間半ぐらいかかると案内しており、登り口の所にも午後からの登山はご遠慮くださいとの看板を設置している。また、

ふれあい公園の事務所でも、通りかかった登山者に注意を呼び掛けている。登山道については、昨年度、国・県のほうで整備がなされているが、事故はいつどこで起こるか予測がつかないので一つ一つ丁寧に対応していきたい。

【市民】

・登山者は公園の事務所のところで、名前を書くのではないか。

<開聞支所長>

・記名については義務付けられてはいないが、できるだけ記名するようお願いしている。

【市民】

・市民税の収納率はどのようになっているか。

<市民生活部長>

・市民税の平成24年度の収納率が92.14%で、その中の個人市民税の現年度分は97.83%、過年度分は19%という状況である。

【市民】

・若い人が税金を払えない状況にあるのではないかと思う。川尻区も高齢化が進み川尻小学校への新入学者は6名と聞いている。今後地区を維持するためにも産業があり、若い人たちが定着していないといけない。「豊かな資源が織りなす食と健康のまち」を指宿市が目指している中で、この川尻区がどういう位置付けにあるのかをお聞きしたい。

<市長>

・川尻区はまとまりがあり、子供を育てる上でこれほど良い環境はないと思っている。川尻小学校から転任される先生方からも、人情豊かで食も豊かであり、風光明媚でもあるという声を聞いている。川尻をもっと魅力のある街にするためには、地域が更にまとまってお出で下さる方を心から歓迎をし、川尻の持つ良さを更に生かしていかなければならない。川尻地域は、今後、みんなの力で盛り上げていくことができると思っている。

【市民】

・川尻区の核になるのは、かいもん荘だと思っている。かいもん荘ができれば雇用も生まれ定住する人も出てくる。地域がまとまっているので新しくできるかいもん荘を盛り上げていく気持ちがある。年度を決めて答えを出して欲しい。

<市長>

・ご意見を重たく受け止めたいと思う。

【市民】

・開聞岳一周道路が通れば、観光客も増えると思う。どのような状況であるか。

<市長>

・昨年、県が調査費を予算化し検討を行っている。開聞岳一周道路は永年の課題であり、重要課題として取り組んでいきたい。

【市民】

・開聞岳一周道路からの眺望は非常にきれいだと思っているが、木が多く見晴らしが悪い。ある程度、木を切ってほしいが、国立公園としての制約はどうなっているか。

<開聞支所長>

・規制が掛かっており全て伐採するということとはできないが、ところどころポイントを絞って切ることは可能かもしれない。

【市民】

・以前は開聞にも図書館があったと聞いている。現在、指宿と山川には図書館があるが、どのような経緯であったのか。

<教育部長>

・利用率等の問題もあり、開聞図書館の機能は現在、開聞支所に移っている。開聞支所では、指宿・山川図書館が保有している本のデータを閲覧し、予約した図書を借りられる仕組みとなっており、

利用者が非常に多い状況である。図書館をというところには至っていない。

<市長>

- ・子供たちが、読書ができるような環境を整備していきたい。